

豊中市立図書館の「図書館サポーター」導入について
意見書

平成 28 年（2016 年）3 月

豊中市立図書館協議会

1. はじめに　－豊中市立図書館の中長期計画とサポーター制度－

豊中市は、平成 26 年 3 月に「豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）」を策定し、現在、豊中市立図書館の使命と理念、基本目標をふまえ事業の見直しを推進しているところである。

その中で取り組むべき課題の一つとして、自立した市民が豊かに暮らすために社会参画ができる機会と場が図書館に求められており、対応する取り組みとして設定されたものが、28 のプランの（27）「図書館サポーター制度」である。具体的には「活動を通じて図書館への親近感、やりがいや生きがいを感じられる機会」や「図書館PRなどの活動の機会と場」の提供を行うこととしている。

これまでも、図書館では、基本目標において「図書館協議会や市民活動団体・市民等の参加や協力を得ながら、「豊中市市民公益活動推進条例」等をふまえ、より魅力的な図書館の運営に努めます」と掲げ、長年にわたり子ども読書活動や障害者サービスなど市民協働の取り組みを進めてきた。今後はこれまでの取り組みに加えて、図書館サポーターの導入をすすめていくことになる。

このため、事業を進めていく上で「図書館サポーター」の導入にあたり必要な視点や留意点を図書館協議会にて協議し、意見書として提示するものである。

2. 導入の目的と想定される効果

図書館サポーター制度が目指すべき目的と市民および図書館にとって得られると考えられる効果については、以下のようにあげられる。

2-1.目的

- ・導入することによって、これまでにない視点を取り入れ、図書館サービスの充実をめざす。
- ・新たな形で市民の社会参加の場をつくり、図書館の理解者を増やす。

2-2.効果

[市民にとって]

- ・図書館の利用者としてだけではなく図書館サポーターという形で、図書館とかかわる選択肢が広がる。
- ・参加者にとってのやりがいを感じ、充実感を得られる。
- ・図書館サポーターの経験が自信や誇りになり、個々の生涯学習活動への刺激となって学びの循環へとつながる。
- ・地域でのコミュニケーションが活性化し、社会貢献への参画の意識が芽生える。
- ・自分の居場所としての『場』がある
- ・図書館が調べものをしたり、知的好奇心を満たす場所であるという本来の機能について理解し、生活の中に図書館を位置づけることができる。
- ・若い世代が親以外の大人と話をする経験を積むなど、異世代交流ができる。
- ・図書館のサービスについて、図書館サポーターから新たな視点で提案できる機会となる。

[図書館にとって]

- ・今まで以上に市民と幅広い関係性を構築できる。
- ・図書館の理念を市民に伝えられる場となり、図書館に対する理解者が増える。
- ・利用者だけでなく、市民が誇りに思える図書館になる。
- ・共に取り組むことで、図書館が提供するサービスの充実につながる。
- ・図書館サポーターという民間活力を導入することによる活性化をはかる。
- ・市民とともに取り組むことで図書館職員の意識改革につながる。

3. 導入にあたって図書館に必要な視点や留意点

3-1. 視点

(1) 「(基本として) 個人単位でのボランティア活動であること」

- ・一人でも気軽に参加しやすい活動内容をめざし、それをわかりやすく広報する。
- ・参加した人が生きがいや心の豊かさを実感でき、生涯学習を推進するうえでの位置づけとなる取組みにする。

(2) 「図書館の基本的役割としての『資料・情報の提供』を踏まえた上で、図書館として持つべき『場』としての機能も視野に入れ、新しい関係がつくられるようにしていくこと」

- ・図書館本来の機能について知る機会とし、学びによる市民の自立をサポートする『場』とする。
- ・世代交流や地域との関わりを持てる社会参加の『場』とする。
- ・参加者にとっては、ともに関わることで図書館という『場』でつながりができ、図書館にとっては市民との新しい関係が作られる。

3-2. 留意点

(1) 「図書館の理念に沿った活動となるように、参加する市民に対して図書館サポーターの事業目的について丁寧な説明を行うこと」

- ・活動が図書館のサービスとどう結びつくかを実感してもらい、その成果について報告会などを通じて参加者にフィードバックし公表することが大切。
- ・図書館サポーターの仕事量（何をしたのか・アウトプット）だけではなく、参加者がやりがい・生きがい・自信等を得ていく成果（何を得たのか・アウトカム）を重要視していく。

(2) 「実施にあたっては、さまざまな側面があるため柔軟性を持たせ、市民にわかりやすく、参加したいと思っていただけるような働きかけ、提示をすること」

- ・情報検索・探索などの利用体験、発表などを実施してイメージしやすくする。
- ・お仕事体験のような講座を実施してきっかけを作る。

(3) 「活動を振り返り、運営も含めて適宜、協議会等の検証を行うこと」

- ・わかりやすい内容を示すと同時に、参加者からの意見を集約し反映させる仕組みが必要である。